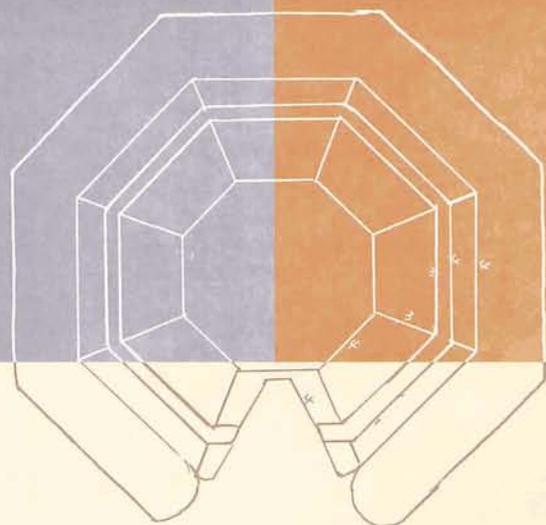
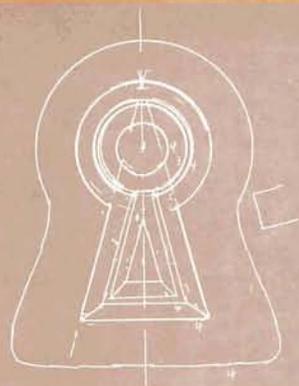
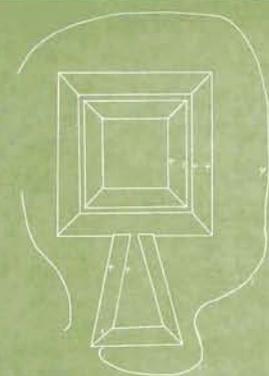
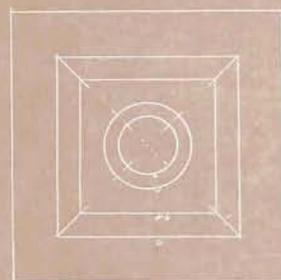
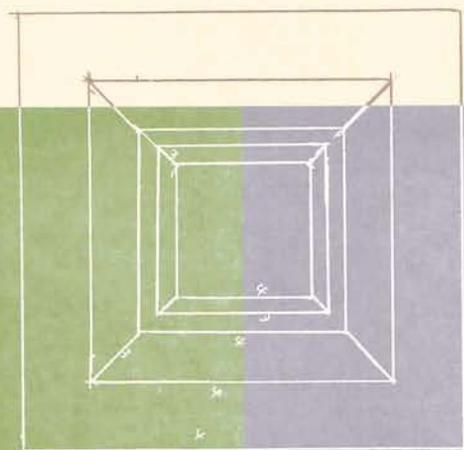


くまがやの古墳

熊谷市周辺の古墳群
—おおさと古墳文化の回廊—



はじめに

● 地形の区分 ●

熊谷市域は利根川と荒川の二大水系によってかたち造られた台地と低地が南北に広がり、南方は比企丘陵の一部までを含んでいます。古くから交通の要衝として発達を遂げ、県北の中核都市としてさらに発展を期待される地域です。大まかな地形区分では、市域の西部は寄居町大字末野を扇頂とする荒川の扇状地地形が発達し、左岸は櫛引台地、右岸は江南台地となります。この台地の東方には、利根川・荒川の沖積活動で造られた大里低地が一望千里に広がり、名荷し負う暴れ川である両河川の歴史を示すように、その流路跡や自然堤防が行く筋も形成され現在の集落が営まれています。その足元には古代の遺跡が数多く埋もれ、台地域でも古墳や城跡などのように、なおその形をとどめる遺跡も多いようです。

ここに紹介する「古墳」は弥生時代に続く3世紀中頃から仏教の広まる奈良時代直前までに作られた当時の人々のお墓です。その形や大きさにより有力な豪族の長から家族の一員のものまで数多く、しかも多様な形の古墳が作られました。後世、壊されることも多く、副葬品や埴輪などがたびたび発見され、当時の文化・技術・思想等を知る豊富な情報が得られました。現在でも、よく保存された古墳や壊れかけている古墳があり、その保護については大きな課題となっています。ぜひ、本書をくまがやの古墳を知る参考書にご活用ください。以下に、くまがやの代表的な古墳を紹介します。

櫛引台地では、別府古墳群（17基以上）、在家古墳群（6基以上）、籠原裏古墳群（10基以上）、三ヶ尻古墳群（58基以上）が、台地外縁から低地にかけては玉井古墳群（2基以上）、原島古墳群（3基以上）、広瀬古墳群（8基以上）、石原古墳群（15基以上）が分布しています。

低地の自然堤防上には、上江袋古墳群（6基以上）、飯塚古墳群（16基以上）西城古墳群（3基以上）、奈良古墳群（2基以上）、中条古墳群（30基以上）、肥塚古墳群（16基以上）、上之古墳群（3基以上）が分布し、なお埋没している古墳の存在も多数予想されています。

荒川の右岸域では、江南台地の縁辺に沿って旧大里までの間に、姥ヶ沢古墳群（3基以上）、行人塚古墳群（4基以上）、上原古墳群（3基以上）、万吉下原古墳群（6基以上）、瀬戸山古墳群（32基以上）、村岡古墳群（4基以上）、東山古墳群（2基以上）、桜谷古墳群（2基以上）、円山古墳群（3基以上）、阿諏訪野古墳群（8基以上）、舟木古墳群（23基以上）、冑山古墳群（3基以上）が分布しています。

和田川沿いには、野原古墳群（24基以上）、立野古墳群（20基以上）、塩古墳群（98基以上）、小江川古墳群（3基以上）などの古墳群が分布しています。市域全体では総数1,000基に達する古墳が築造されたと考えられます。

● 特 徴 ●

くまがやの古墳には基本的な古墳の形がほとんどそろっています。残っている古墳の九割は「円墳」で、甲山古墳は市内最大です。塩古墳群には「方墳」や、「前方後方墳」があり、市内最古の古墳になります。古墳の代表といえば「前方後円墳」が良く知られ、市域の古墳群では古墳群の盟主として築造されますが、いずれも小規模で同時期の行田市埼玉古墳群の首長に属した地域の小首長に位置づけられます。今までに横塚山・鰐塚・女塚・野原・伊勢山古墳などが発掘調査され、古墳を飾る大量の埴輪や武器が出土しました。古墳時代後期の末には埴輪が廃れ、前方後円墳も築造されなくなります。仏教の影響や政治的な命令で古墳の築造が制限されたことが一因で、この時期を終末期と呼びます。このころ東国には渡来の人々が移住し、開拓を進め先進的な文化の普及に当たりました。その指導者たちや政治的に優位であった人々が特別に築造した古墳と考えられる宮塚古墳は「上円下方墳」、籠原裏1号墳は「八角形墳」という天皇などの有力者の古墳の形をまねています。渡来の人々が築造を始めた立野古墳群は、奈良時代に寺内廃寺を創建する古代氏族壬生吉志氏に関係すると考えられます。一方、墳丘を持たない「横穴墓」が小江川地区の岩山を穿って造られました。市域で最後に造られた古墳のひとつです。

このように市内の古墳は各時期の代表的な形態がそろい、地域ごとの移り変わりを見ることができる好条件を備えています。また、出土品においても全国に知られる「短甲武人埴輪」や「踊る埴輪」などなじみの深い、貴重な遺物が多数見つかっています。市立江南文化財センターでは、これらの古墳などからの出土品を公開していますので、古墳とともにお立ち寄りください。

「くまがやの古墳」平成20年3月発行
熊谷市教育委員会社会教育課内
熊谷市立江南文化財センター
〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329
TEL048-536-5062

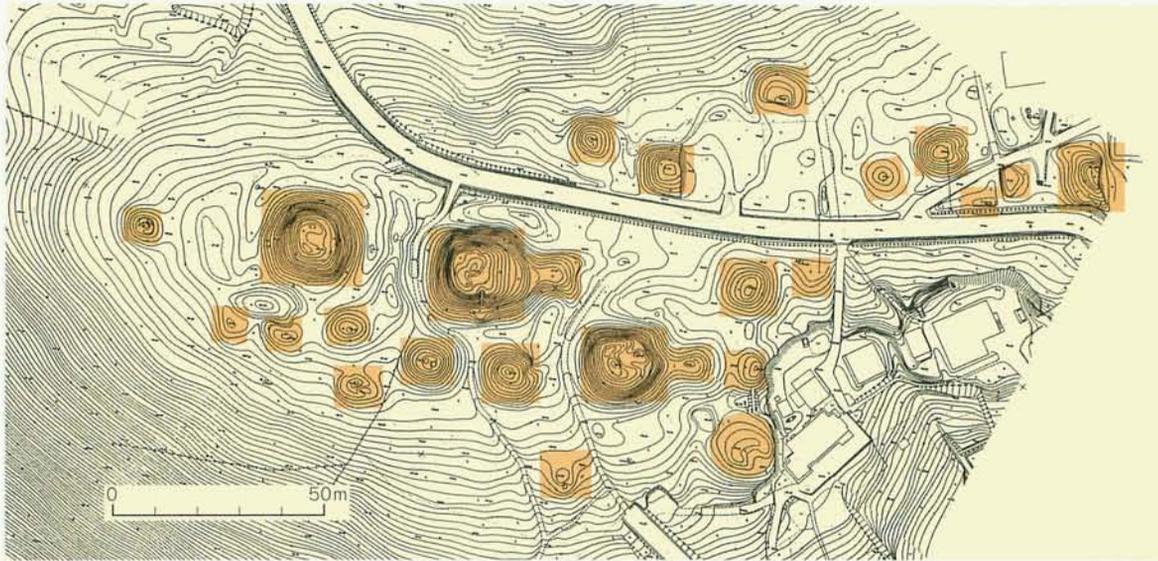
- 1 飯塚古墳群
- 2 道ヶ谷戸古墳群
- 3 王子古墳群
- 4 上江袋古墳群
- 5 西城古墳群
- 6 長安寺古墳群
- 7 別府古墳群
- 8 在家古墳群
- 9 籠原裏古墳群
- 10 玉井古墳群
- 11 原島古墳群
- 12 中条古墳群小曾根支群
- 13 中条古墳群今井支群
- 14 中条古墳群上中条支群
- 15 中条古墳群北島支群
- 16 中条古墳群大塚支群
- 17 上之古墳群
- 18 肥塚古墳群
- 19 石原古墳群
- 20 広瀬古墳群東支群
- 21 広瀬古墳群西支群
- 22 三ヶ尻古墳群

- 23 姥ヶ沢古墳群
- 24 姥ヶ沢埴輪窯跡
- 25 村岡古墳群
- 26 万吉下原古墳群
- 27 瀬戸山古墳群平塚新田支群
- 28 瀬戸山古墳群楊井支群
- 28 立野古墳群
- 29 塩古墳群
- 30 上原古墳群
- 31 野原古墳群
- 32 野原古墳群東支群
- 33 賢木岡古墳群
- 34 阿諏訪野古墳群
- 35 円山古墳群
- 36 船木古墳群
- 37 東山古墳群
- 38 桜谷古墳群
- 39 大境南古墳群



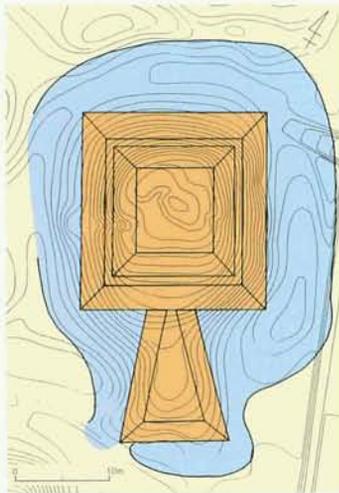
熊谷市域の主要古墳分布図

塩古墳群 塩 県史跡



比企丘陵北縁で標高80mの丘陵上に所在し、滑川・和田川水系の小盆地を望む。上図は第I支群の狸塚群で、最高所に位置し前方後方墳2基と方墳群から構成される。3世紀末から4世紀代に方墳の築造が始まり、前方後方墳は4世紀中ごろの築造と考えられる。狸塚支群は7支群90基を越える古墳群の中で最初に造られた古墳群で、保存状態も良く里山の立地に良く守られている。他の支群はII支群荒井、III支群西原、IV支群諸ヶ谷、V支群明賀、VI支群丸山、VII支群栗崎とがあり、枝分かれした尾根上に分布する。発掘調査が行われたIII支群18号古墳は初期の胴張形横穴式石室を持つ円墳で、多数の埴輪や馬具・武器等が豊富に出土し、6世紀後半の築造と考えられている。また、III支群に隣接する古里古墳群は塩古墳群と一体の古墳群として把握することが適当で、同地区には終末期の尾根横穴墓も開口しているなど、終末期まで古墳の築造がなされている地域と考えられる。★🏞️🌿🚫🗑️

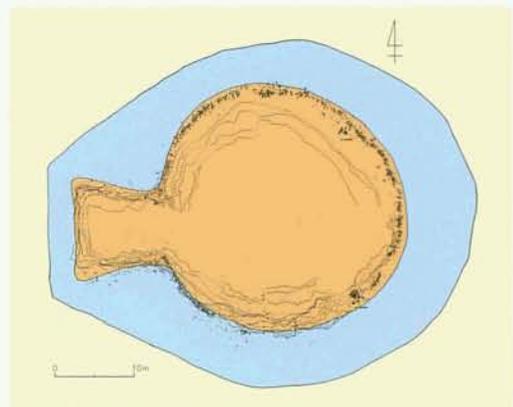
塩古墳群 狸塚支群 1号墳



発掘調査により一辺20mの方墳部に長さ15mの前方部がつく、全長35mの前方後方墳と確認された。前方部の幅12mで、後方部の高さ4.3mを測る。墳丘の中段付近まで本来の地山を削り出して墳丘とし上位に盛土している。周溝がめぐるものの周囲の小方墳と共有している部分があり、周溝での切り合い前後関係は不明である。壺形土器が出土していることから、4世紀中頃に築造されたものと考えられるが、埋葬主体部の調査はされていない。

★🌿🚫🗑️

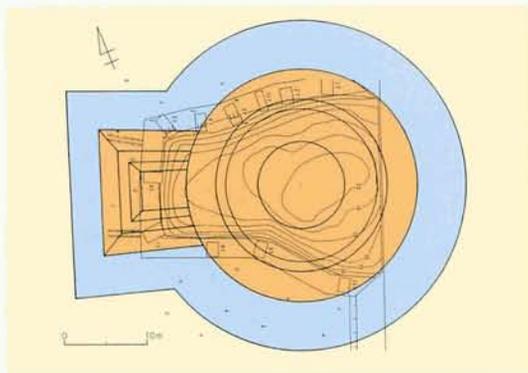
鎧塚古墳 上中条



墳丘が削平されていたため発掘調査により、帆立貝式前方後円墳と確認された。後円部直径37m、前方部長6.6m、長さ43.6mの帆立貝式前方後円墳である。墳丘も埋葬主体部も残っていなかったが、130個以上の埴輪が古墳を取り巻き、2箇所に祭りの器物が備えられていた。近代の土採時に削平されたが本墳又は女塚1号墳から、獣文倭鏡の出土が伝えられている。出土土器や埴輪の時期から5世紀末から6世紀初頭の築造と考えられている。

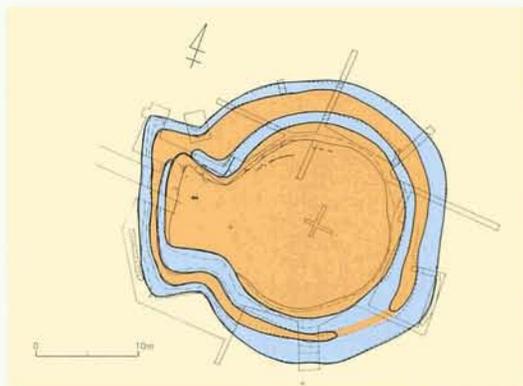
🌿🗑️

横塚山古墳 奈良 市史跡



奈良地区を走る国道407号線の傍らに残る古墳で、大きく削り取られているものの当初は後円部直径35m、前方部長7mで、全長42mの帆立貝式前方後円墳に復元される。過去の土採時に多量の河原石などの礫が出土したとされることから、埋葬主体部は礫塚であった可能性が考えられる。また、周溝から多くの埴輪が出土し、その特徴から古墳の築造は5世末頃と考えられている。☒☒☒

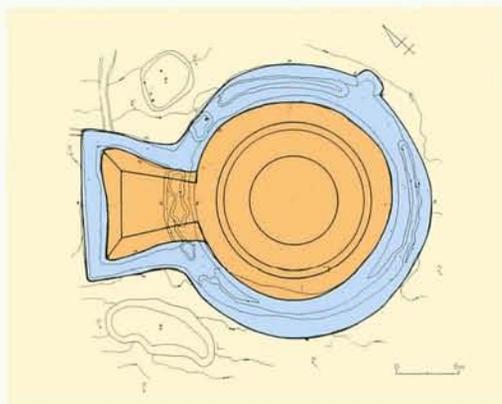
女塚1号墳 上中条



鍬塚古墳の西方に主軸を同じくする前方後円墳で、後円部直径36m、前方部長10m、全長46mの帆立貝式前方後円墳である。古墳と同じ形に巡る二重の周溝と堤が確認された。墳丘も埋葬主体部も残っていなかった。本来は墳丘や周堤に立てられた円筒埴輪や形象埴輪が多数出土しており、盾持武人や鹿・猪などの埴輪がある。鍬塚古墳に次ぐ6世紀前半の築造と考えられている。

☒☒

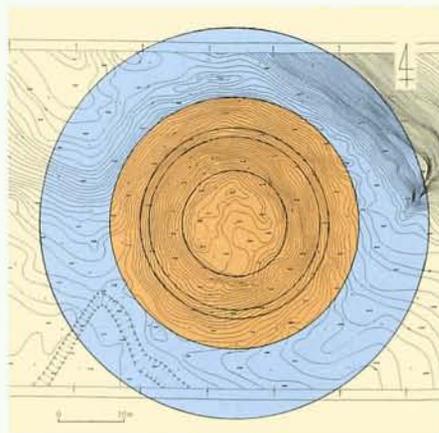
東山1号墳 (大塚) 箕輪



発掘調査された東山古墳群の中心に築造された古墳で、当初は直径26mの円墳として築造された。後に、円墳の西側に長さ19mの前方部を新たに造り足して全長45mの帆立貝式前方後円墳に改造したことがわかる珍しい例である。埋葬主体部は削り取られているが石材の一部からきり石を使った横穴式石室と考えられる。埴輪は出土せず时期的にも最も新しく、7世紀前半に築造された前方後円墳のひとつと考えられている。

☒☒

天神山古墳 御正新田



万吉、楊井の低地を望む江南台地の縁辺に築造された中規模の円墳である。直径30mを測り、二段に墳丘を盛り上げ、高さ3mに築成していると考えられる。古墳は山林中に残るため良く保存され、発掘調査は行っていない。周囲の古墳から埴輪が出土することから、6世紀後半に築造された円墳と考えられるが、台地先端部に立地する様子から前期、中期に築造された可能性も残されている。

☒☒

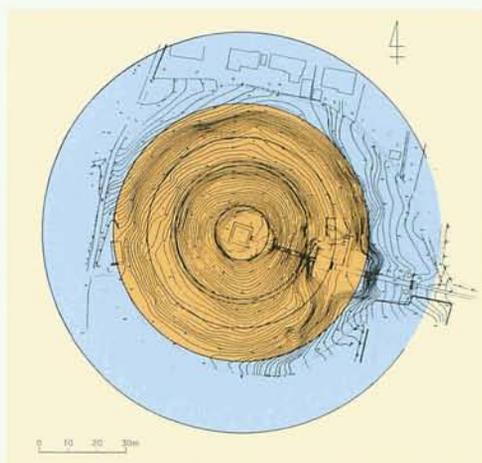
※注意：帆立貝式前方後円墳とは、前方部の長さが後円部直径の1/2程である前方後円墳をいう。

とうかん山古墳 箕輪 県史跡



集落の中に残る古墳で、墳丘周囲の改変がみられ周溝も埋没しているが、市内最大の前方後円墳である。後円部直径37m、前方部長38m、全長75mである。前方部は幅42mと大きく開く。埼玉古墳群中の同時期の瓦塚古墳の規模に匹敵する。墳丘はよく残り後円部で高さ6.2mである。採取された埴輪から6世紀後半代の築造で、横穴式石室を埋葬主体部に持つと推定されている。★

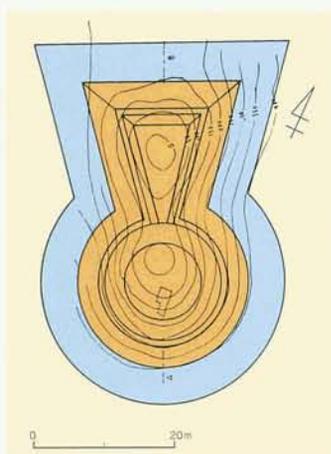
甲山古墳 冑山 県史跡



埼玉古墳群中の丸墓山古墳に次ぐ県内第2位の規模を有する円墳である。直径90m、埋没している周溝を含めると100mを超える規模で、墳麓からの高さは11mを測る。一段目のテラス部分から埴輪が採取され、6世紀後半代の築造と考えられる。比企丘陵北端の大古墳群、三千塚古墳群の東端に位置し、とうかん山古墳とともに埼玉古墳群との関係が注意されている。

★

伊勢山古墳 平塚新田

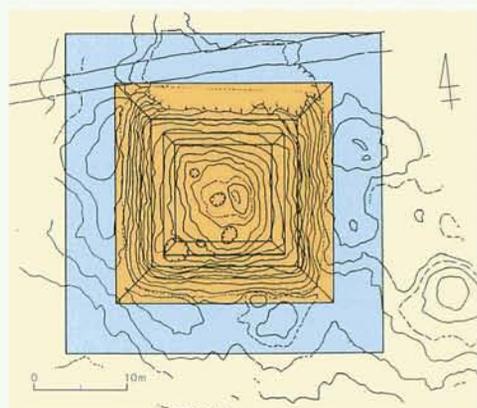


江南台地の北縁に立地していた前方後円墳で、全長41m、後円部の高さ3mであった。昭和36年の発掘調査では凝灰岩の切石を切組みした片袖型の横穴式石室が確認され、6世紀後半代の埴輪や馬具が出土した。

江南台地の南縁では和田川を望む位置に同時期で同規模同型式の墳丘と横穴式石室を持つ前方後円墳の野原古墳が所在していた。



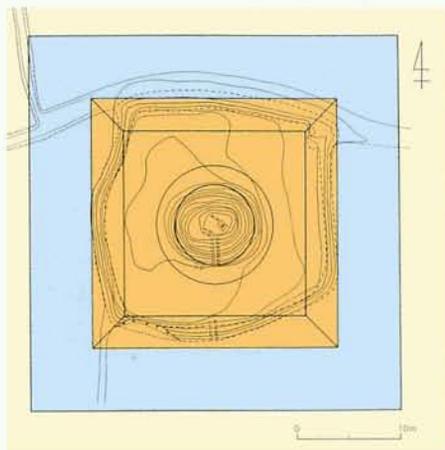
行人塚古墳 成沢 市史跡



江南台地の北縁に立地する方墳で、一辺22m、高さ2.8mを測る。周溝が巡るが、隅部では浅くなる。埋葬主体部は不明で出土遺物も伝わっていない。古墳時代終末期の古墳と考えられるが、後代に塚として改変された可能性もある。付近に塚状の小古墳が分布している。

★

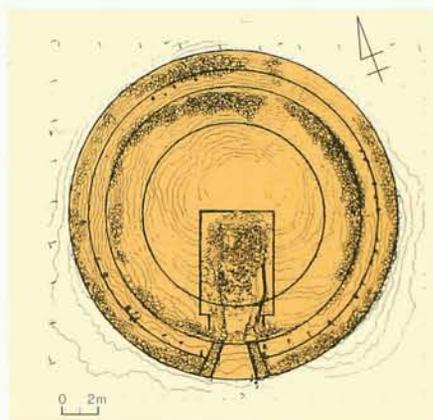
宮塚古墳 広瀬 国史跡



荒川の自然堤防上に分布する広瀬古墳群中にあり、一辺約24mの方形壇の上に直径9mの円丘を載せることから、終末期の上円下方墳と考えられている。山王塚、御供塚の呼称もあった。墳丘の一部に河原石を積み上げた部分が残るが、出土遺物や埋葬主体部は知られていない。上円部の直径が小さいので火葬墓である可能性も考えられている。良く保存されており、発掘調査は実施されていない。

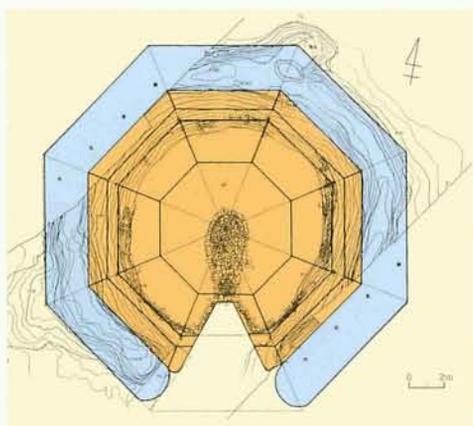


やねや塚古墳 三ヶ尻



櫛引台地の先端から観音山の背後に広がる三ヶ尻古墳群中の1基で、新幹線の建設にともない発掘調査された。直径23m、高さ3m、二段築成の円墳で川原石の葺石でおおわれていた。6世紀末の築造と考えられ、主体部の川原石積横穴式石室から、銀象嵌の装飾大刀等の武器類やガラス玉など豊富な遺物が出土した。付近にはまだ多くの古墳が残り、本墳も観音山南西麓へ場所を移して墳丘と石室が復元されている。★☒

籠原裏1号墳 新堀



櫛引台地の中央部で発見された籠原裏古墳群の1基で、墳丘の大半は削平されていたが、一辺約6mの八角形古墳であることが確認された。主体部は川原石積の横穴式石室で、盗掘を受けていたため大刀の金具など少量の遺物しか出土していないが、7世紀末の築造と考えられる。八角形墳の作られた時期や被葬者は限られ、幡羅郡の建郡にかかわった豪族や官人であった人物とも考えられている。

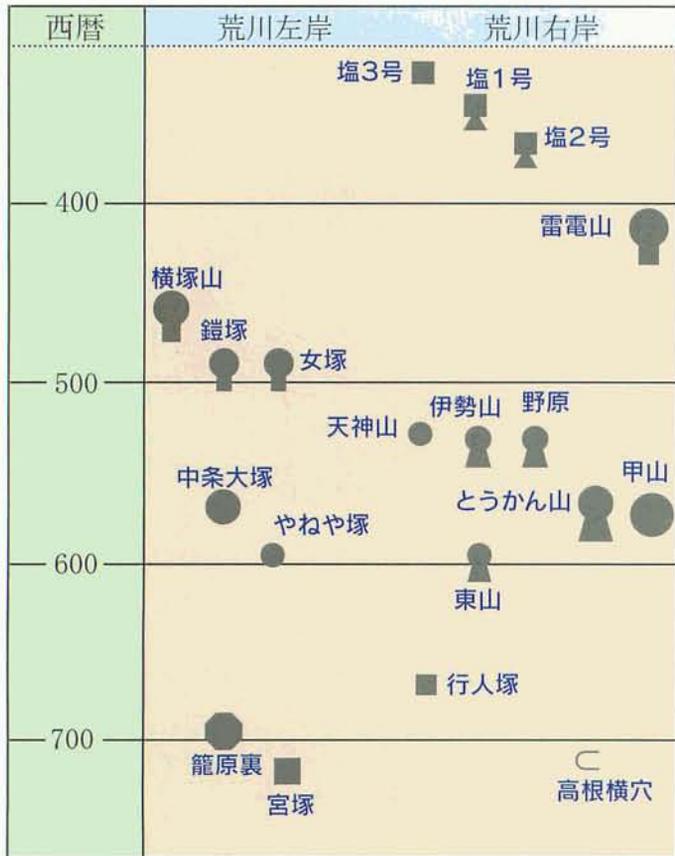


高根横穴墓 小江川 市史跡



比企丘陵北端の高根山西尾根に位置し、山体の凝灰岩層を穿って造られている。横穴は現在1基開口しているが、玄室部分のみが残っている。出土遺物は知られていないが、古墳時代末の横穴墓と考えられている。高根山の東には天神山横穴墓（滑川町）が存在し、周囲にも数多く埋没していることが推定される。なお、この凝灰岩層は横穴式石室の石材として多量に切り出され周辺の古墳に使用されていた。





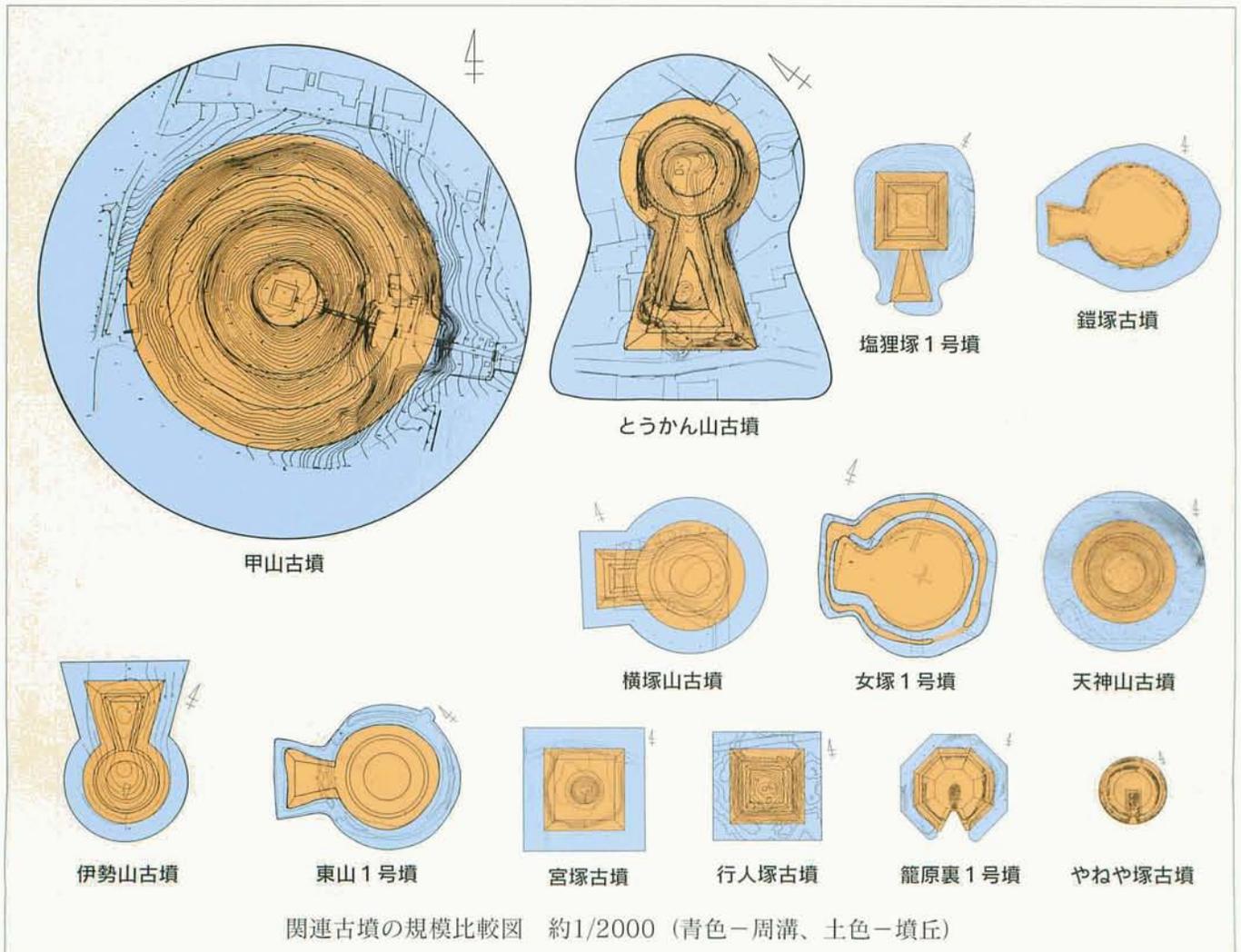
古墳時代は3世紀中頃から7世紀末までの間と考えられ、前期(250~400年)、中期(401~500)、後期(501~600)、終末期(601~)と概略区分しています。熊谷市域には古墳時代の各時期の古墳が築造され、各時期に特徴的な形態の古墳や他地域に抜きん出る古墳も確認されています。

このように各種の特徴をもつ古墳が分布する地域は珍しく、歴史的な背景が注意されます。

市では古墳の保存整備を計画的に進めるとともに、遺跡を取り巻く空間を歴史学習の場、自然観察の場とするなど、遺跡が多様な価値を持つ文化財として、一層の活用を図られるように努めてまいります。

案内書・参考文献

- 埼玉県教育委員会 1994 「埼玉県古墳詳細分布調査報告書」
- 江南町教育委員会 1995 「江南町史Ⅰ 考古資料編」
- 塩野博 2004 「埼玉の古墳 大里」
- 熊谷市教育委員会 2005 「籠原裏古墳群」



※発掘調査未実施の古墳周溝は地形の凹から想定復元